

# 令和 8 年度取りまとめに向けた連関図の方向性

## 1 連関図作成の基本的な考え方

### (1) 連関図の目的

平成 18 年度、28 年度取りまとめにおける連関図の作成目的を引き継ぎ、令和 8 年度取りまとめの報告においても有明海・八代海両海域における生物・水産資源にかかる問題点及び問題点に関連する可能性が指摘されている要因を取りまとめたものとする。なお、生態系モデルとして連関図を作成することが目的でないことに留意（再生に向けた検討のための生態系モデル作成を否定するものではない）。

### (2) 現行の連関図の課題

連関図については、令和 3 年度中間取りまとめにおいて、「平成 28 年度時点での知見に基づき、分かりやすさを優先して作成されたものであり、これまでに得られた知見や、各々の関係の影響の大小、いまだ明らかになっていない事象等、今後の調査研究を踏まえ、更なる精査や深化が求められる」と指摘されていることから、次項のとおり所要の改善を図る。

## 2 令和 8 年度取りまとめに向けた連関図

### (1) 現行の連関図の改善

連関図は、現行の構成を基本としつつ、気候変動影響等の新たな項目や新たな文献等に基づく、要因の追加・削除、矢印（点線・実線）等の更新を行うことに加えて、分かりやすさの観点から連関図の簡略化を検討する。

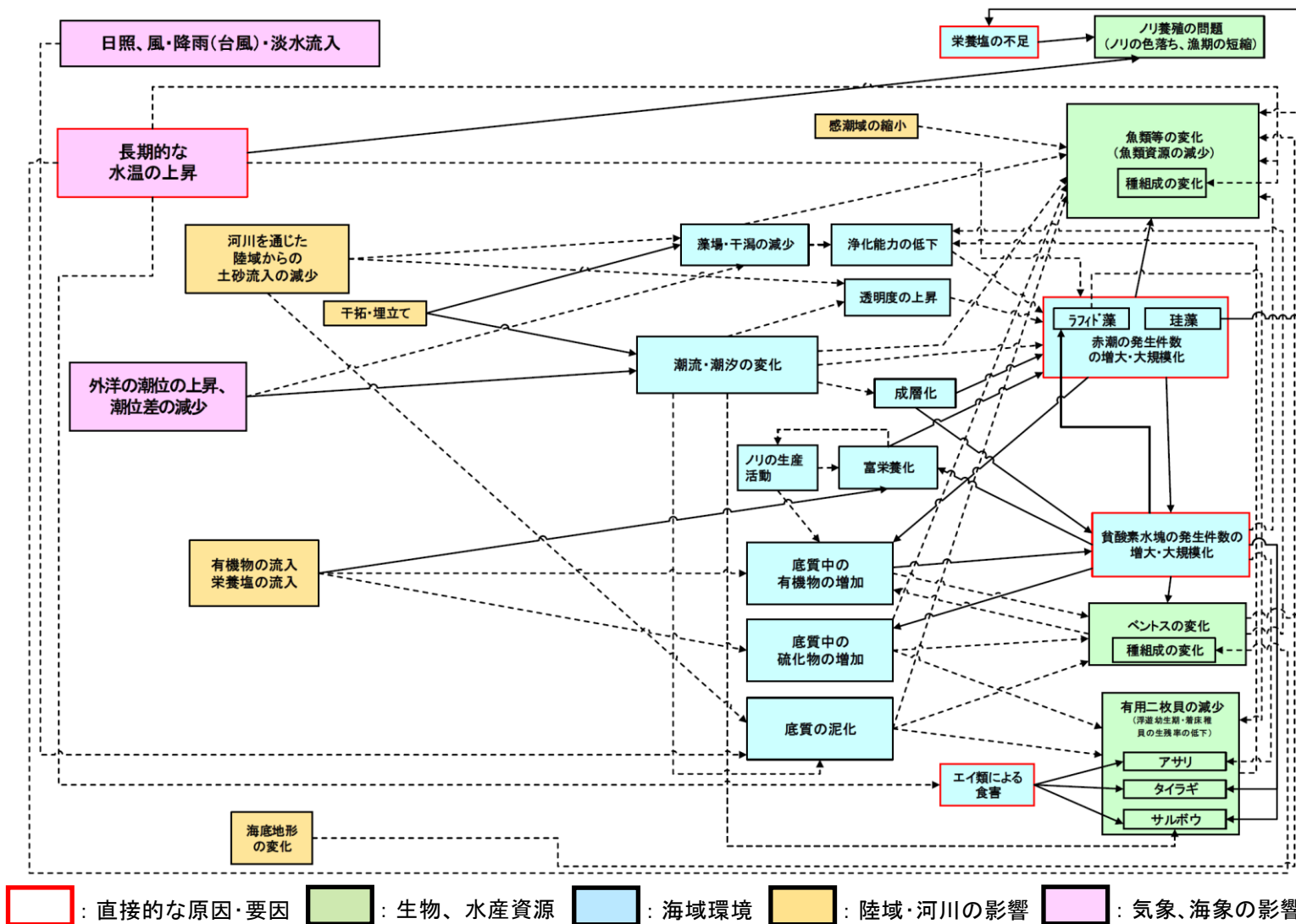
また、連関図を作成したうえで、令和 3 年度中間とりまとめにおいて整理したように（図 2 参照）、今回も同様に連関図における再生方策の位置づけを検討する。

### (2) サブ連関図の作成（新規）

現行の連関図は、有明海、八代海等の多様な生物の生息環境の確保を図りつつ、生態系を構成する上で、又は水産資源として重要と考えられる生物として取りあげられた 4 項目「ベントス（底生生物）の変化」、「有用二枚貝の減少」、「ノリ養殖の問題」及び「魚類等の変化」に着目し作成されている。令和 8 年度委員会報告では、現行の連関図（図 1）の改善を図ることに加え、主要 4 項目に係る原因・要因の見える化の観点から、主要 4 項目や重要と考えられる項目を中心としたサブ連関図を検討する。

### (3) その他の要素について

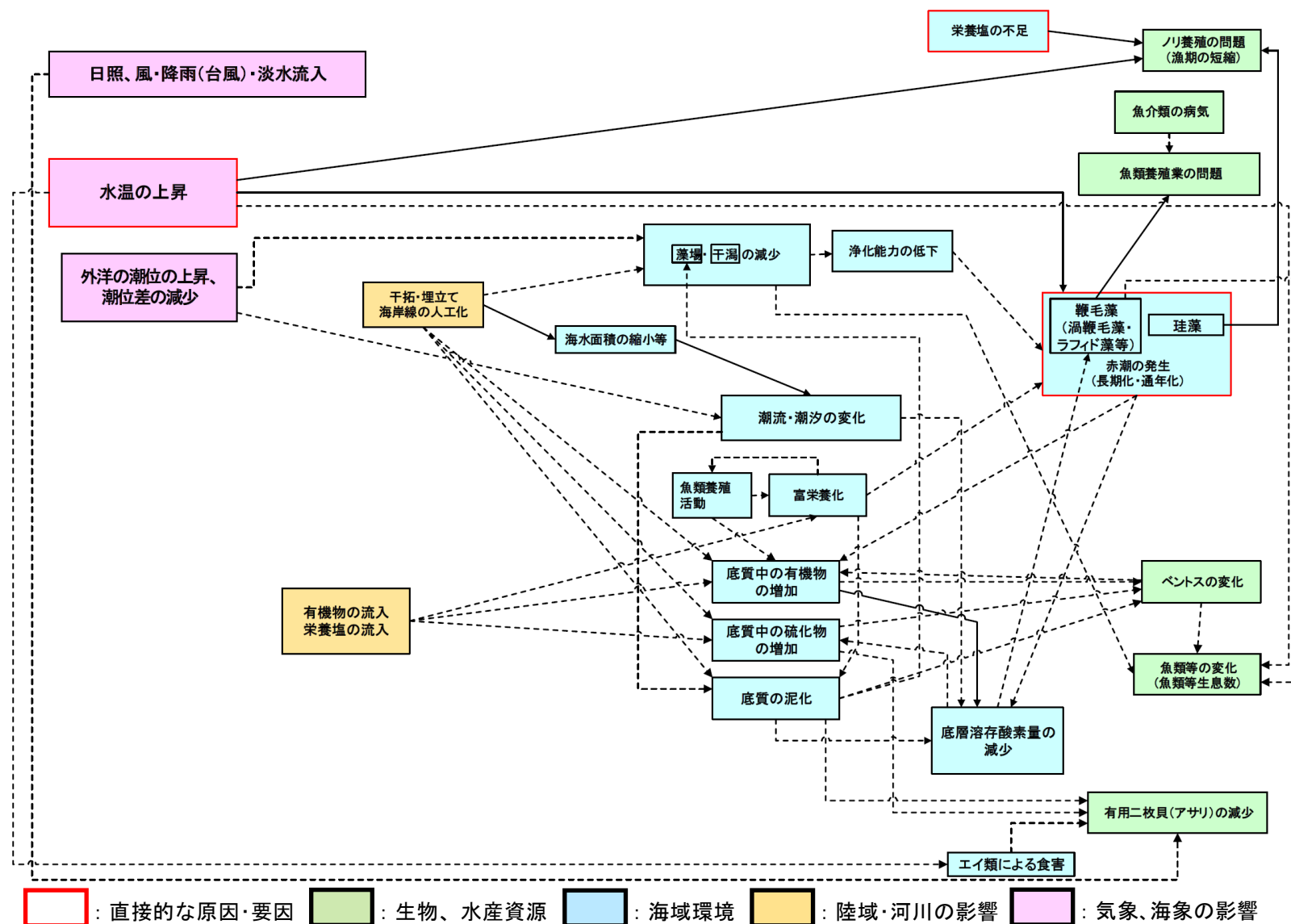
連関図上の要因間の影響の度合いに応じた表現や季節別の整理等については、基本的にサブ連関図での適用を検討する。



注) 本報告書において関連があることを確認したものを実線で、その他を点線で示した。なお、有明海の中で関連があることを確認した海域区分が一つでもあれば実線で示している。

図1(1) 有明海における問題点と原因・要因との関連の可能性

出典：「有明海・八代海等総合調査評価委員会報告」（平成 29 年 3 月、有明海・八代海等総合調査評価委員会）



注) 本報告書において関連があることを確認したものを実線で、その他を点線で示した。なお、八代海の中で関連があることを確認した海域区分が一つでもあれば実線で示している。

図1(2) 八代海における問題点と原因・要因との関連の可能性

出典：「有明海・八代海等総合調査評価委員会報告」（平成 29 年 3 月、有明海・八代海等総合調査評価委員会）



